PRESS RELEASE

報道関係各位

2026年11月25日
株式会社LIXIL
学校法人法政大学

LIXILと法政大学、「エクステリアの未来を考えるプロジェクト」を協働で実施

若き発想力で挑む新たなエクステリアの価値創造

株式会社LIXIL（以下LIXIL）は、法政大学デザイン工学部建築学科 南後由和研究室（以下法政大学南後研）と協働し、次世代のエクステリアの可能性を創出する「エクステリアの未来を考えるプロジェクト」を2026年4月から2026年10月にかけて実施しました。約半年間にわたり学生が検討を重ねた5〜10年先を見据えた新たなエクステリアの提案が、10月28日の審査・表彰式で発表されました。



近年、人口減少や少子高齢化、新築住宅着工戸数の減少による市場構造の変化に加え、気候変動の深刻化やライフスタイルの多様化によりエンドユーザーが住まいやエクステリアに求める価値も大きく変化しています。このような環境下において、LIXILのエクステリア事業では、自社内に留まらない未来志向のアプローチにより「エクステリアの常識を超えていく」変革を推進し、EXSIORブランドが目指す「ソトと、毎日を暮らす。」感動体験と、持続可能な製品・空間価値の創出に取り組んでいます。一方、法政大学南後研では、意匠提案にとどまらず、事業性や建築と社会・地域との接点を意識する実践的な学びの機会を創出しています。今回、両者はエクステリアが持つ「パブリックとプライベート」「建築と近隣関係」をつなぎ直すポテンシャルに着目し、双方の考えが一致したことから本産学協働プロジェクトが立ち上がりました。

■ プロジェクトの取り組み概要

本プロジェクトでは、2026年4月～2026年10月までの期間で法政大学南後研の学生15名が参加しました。4つの班が異なる切り口で独自テーマを設定し、5～10年先の暮らしと環境を見据えた「これからのエクステリアがもたらす新たな価値」を検討・提案しました。

●第1回：イントロダクション

LIXILの事業概要に加え、エクステリアを取り巻く環境や市場ニーズを共有。オープン外構における防犯対策、異常気象に伴う防災・減災、遮熱・快適性の向上といったトレンドから、職人不足に対応する省施工技術や環境配慮素材の活用まで、社会・業界の課題と取り組みを説明しました。各班が明確な背景と問題意識を持って取り組めるよう、基礎知識を提供しました。

●第2回～第5回：検討会

計4回の検討会では、各班が設定したテーマについて「課題背景」「問題意識」「アイデアの具体化」などを議論。 特に7月31日（第3回）は「中間発表」と位置付け、最終提案に向けた検討成果を取りまとめ、全体のストーリーラインを整理・収束させる重要な節目となりました。質疑・講評の場では、南後教授と当社の双方の専門性を活かした多角的なアドバイスを行いました。南後教授からは、社会学・都市論の知見に基づき「空間・都市・暮らし」の社会的関係性やユーザーの潜在心理（インサイト）にアプローチし、「エクステリアが持つ社会的意味」を問い直す助言によって学生の思考を高次へと引き上げました。また、LIXIL社員からは、製品開発や事業に携わる実務者の視点から、実現可能性やターゲット設定、独自の提供価値を検証し、問いかけを中心とする対話によって思考の拡散と収束を促し、学生自身による気づきと深掘りを支える伴走支援を行いました。





●審査・表彰式

本取り組みの集大成として、10月28日に審査・表彰式を開催しました。当日は、約半年間にわたり議論と検討を重ねてきた学生4班が登壇し、次世代ならではの洞察と自由な発想を取り入れたエクステリアの提案があり、審査委員からも事業性や都市空間への実装を巡る質問や講評が飛び交うなど、実りある共創の場となりました。

なかでも、モビリティの進化に伴う未来の歩道空間に着目した提案は、消波ブロックの構造を用いたユニットを街路に配置し、読書や作業など多様な滞在アクティビティを受け止める居場所を創出する先進的な空間提案として注目を集めました。また、深刻化する気候変動に向き合った提案では、屋外に人工雲を生み出し日陰と涼を創出することで、過酷な暑さのなかでも人々が屋外に集える新たな環境装置としての可能性を提示しました。このほかにも、バス停を日常の健康づくりの場へ転換する試みや、既存の郵便ポストを活用した不用品の地域内循環など、地球温暖化・高齢化・コミュニティの希薄化といった社会課題にエクステリアの力で挑む、従来の枠にとらわれない意欲的な提案が披露されました。








●参加者からのコメント

株式会社LIXIL LIXIL Housing Technology エクステリア事業部 事業部長 大沼 剛
半年間にわたり熱意あふれる素晴らしい提案を届けてくださった学生の皆様に、心より感謝申し上げます。どのプレゼンテーションも甲乙つけがたく、ひたむきなパッションに深く心を動かされました。ビジネス視点や社内の固定観念にとらわれがちだった私たちにとって、街や暮らしをまっすぐに見つめる学生ならではの着眼点は、本当に多くの気づきと刺激をもたらしてくれました。イノベーションとは『既知と既知の掛け合わせ』から生まれます。学生の自由な発想と私たちが培ってきた技術が出会うことで、エクステリアが持つ可能性を切り拓く貴重な共創の場となりました。今回得た学びを糧に、私たちも次世代とともに新たな価値創造へ挑戦を続けてまいります。

法政大学デザイン工学部建築学科 教授 南後 由和
エクステリアを通じて個人・近隣・地域・都市・地球環境など、スケールを横断して様々な事象を捉え直す手応えを感じることのできる大変充実したプロジェクトでした。プライベートとパブリック、インテリアとエクステリアの境界を物理的、概念的に書き替えていくためのヒントも多く得られました。普段の授業課題と比べて、より事業性を踏まえた提案が求められたことも学生たちにとっての学びにつながりました。LIXILの皆様には、定期的に本学へお越しいただいての学生たちへの丁寧なフィードバックや、貴社において最終審査・表彰式というハレの場を設けていただきましたことに心より感謝申し上げます。

法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻 修士課程1年 木村 響
コンペという形式ではありましたが、研究室全体で一体感を持って取り組めたプロジェクトでした。従来は住宅に付属するものとして捉えられてきたエクステリアに対し、各グループが公共空間への展開という共通の課題意識を持ちながら異なる視点からその可能性を模索し、互いの提案から多くを学ぶことができました。またLIXILの皆様との毎月のエスキスでは、社会実装を見据えた実務的な視点をはじめ多くの学びがありました。多大なるご協力に心より感謝申し上げます。

■参考情報
法政大学デザイン工学部建築学科 南後由和研究室 概要
南後研究室は、社会学と建築学を掛け合わせながら、建築と社会、建築と異分野、物理空間と情報空間などの関係性を問い直す学際的な研究に取り組んでいます。社会学を専門とする教員と、建築設計、都市デザイン、デザインリサーチなどを専門とする学生が協働しています。南後研究室では、企業、行政、NPO、他大学の方々との共同プロジェクト・委託研究などを積極的に推進しており、都市、メディア、異分野を横断して、建築の新たな枠組みやフィールドを切り拓く活動を展開しています。
南後研究室ウェブサイト：https://www.nango-lab.jp

参加学生（敬称略・五十音順）
相原 康佑・伊藤 彩笑・井上 皓誠・大川内 丈翔・岐部 優奈・木伏 悠真・木村 響・齋藤 克哉・澤井 大成・鉄 紫絢・西野 航平・根本 脩平・廣部 智也・細井 風花・山口 心音

About LIXIL
LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在約53,000人の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。
日本国内においては、「愛すべき日常を、つくろう。」をブランドスローガンとして掲げたLIXILをはじめとする、日本の住まいと暮らしに深く根差したブランドを幅広く展開しています。
株式会社LIXIL（証券コード: 5938）は、2026年3月期に1兆5,107億円の連結売上収益を計上しています。
LIXILグローバルサイト：https://www.lixil.com/jp/

発行元
株式会社LIXIL（https://www.lixil.com/jp）
本社：東京都品川区西品川一丁目1番1号大崎ガーデンタワー24F
※このリリースは、LIXIL Newsroom（https://newsroom.lixil.com/ja/）でも発表しています。